

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	壬生こども発達支援センタージニアス		
○保護者評価実施期間	R8年2月1日		R8年3月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 9
○従業者評価実施期間	R8年2月1日		R8年3月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	R8年4月10日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・個別療育であること。 1人1人の発達に合わせた支援の提供ができる。	・個別支援計画に基づき一人一人の発達に合わせた療育内容を考え、楽しく行うことで、やる気を引き出し、達成感が感じられる活動を提案している。 ・手に触れるもの、道具や遊具に変化を持たせること。	・本児の現状を職員間でしっかり把握し、共通認識を持ってチームで療育内容、支援の方法等を考えていく。 ・環境設定や提供内容の充実。
2	・安心・安全な場所の提供。	・話しやすい関係づくり、共感した対話を意識している。 ・何気ない会話の中から情報を得ること。 ・関係する機関との情報共有。	・ご家族の状況の把握。 ・定期的な情報収集や支援方法の確認。
3	・関係機関との連携。	・各関係する機関(在籍する幼、保、こども園など)(相談支援事業所や市町などと定期的に情報交換している。	・日常の様子を共有し、共に考えていくことで、支援に活かしていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・保護者同士の交流の場が少ない。	・個別療育であること。	・親子イベントの開催。 ・研修等を案内する。
2	・各種マニュアルや避難訓練等の理解が薄い。	・玄関に掲示しているが、周知されていない。	・モニタリング時に提示する。 ・年度始めにメール等で通知する。
3	・事業所内のこども同士はイベント等で交流があるが、地域の他のこどもとの交流活動の機会は少ない。	・法人内のイベントは他市で開催のため地域との交流があるが、事業所内児童間での交流になっていることが多い。	・法人のお祭りを体験イベントとし、事業所内外の児童との交流が持てるようにグループ参加を企画して交流の場を作る。